古典学習への興味・関心を高める国語科学習指導
―テレビドラマの動画を活用した相聞の短歌作成の実践から―

福岡県田川市立田川中学校　豊瀬　仁須

はじめに

これまで私が行ってきた古典学習は、ともすると同じような授業展開のくりかえしになってしまい、必ずしも生徒の興味・関心を高めるものにはなっていなかった。本単元では、この反省のもとに、古典学習への興味・関心を高める手立てを探ることにした。

単元名　和歌の世界

古典学習に対する生徒の興味・関心

事前に行ったアンケートでは、九十五％の生徒が、古典学習に対して「嫌い」と回答した。五％が「どちらでもない」と回答しており、「好き」と回答した生徒は皆無であった。

万葉集の相聞の短歌への着目

これまでの古典学習では、恋の歌である相聞に共感する生徒が多かった。このことに着目して、本単元では、相聞の短歌を生徒に作らせることにした。

「花より男子2」の動画の導入

生徒たちは、相聞の短歌に興味を示したものの、生徒自身の恋愛感情をモチーフにすることには抵抗があった。そこで、テレビドラマ「花より男子2」の二つの場面を編集して生徒に視聴させ、その動画をモチーフにして、相聞の短歌を作らせることにした。

場面Ⅰ：主人公の牧野つくしが道明寺司に別れを告げる場面

場面Ⅱ：道明寺の初恋の味は牧野が作ったクッキーの味であることを語る場面

「花より男子2」は一名を除いて全員が見たことがあり、授業で視聴することを楽しみにしている様子がうかがえた。授業中の様相観察からは、非常に意欲的に学習に参加する様子が分かった。

スモールステップの導入

相聞の短歌を生徒に作成させるために、スモールステップを導入した。導入したスモールステップは次のとおりである。

ステップ1：動画を見て、登場人物の本心を書く。（男子は道明寺司の立場で、女子は牧野つくしの立場で）

ステップ2：登場人物の本心を相聞の短歌にする。

ステップ3：ステップ2の短歌を万葉集の特徴を取り入れた短歌にする。

ステップ3では、「五七調」「枕詞」「反復」等の万葉集の特徴をできるだけ取り入れるように指示した。

ステップ1では、動画が登場人物とほぼ同年代の生徒たちにとって共感しやすい内容であったため、生徒は登場人物の気持ちを想像して書くことができた。

ステップ2では、現代仮名遣いで、自由に登場人物の本心を短歌にする様子が見られた。

ステップ3では、万葉集の短歌を参考にしたり、仮名遣いを歴史的仮名遣いにしたりして、相聞の短歌を作成することができた。「クッキー」が、ステップ3では「焼き菓子」と表現された。これは、外来語を使わないようにと生徒が工夫したものである。

スモールステップを導入することによって、生徒たちにとって初めての経験である相聞の短歌作成が可能になった。

○　男子生徒の作品例

道明寺　妹が好きだよ　一人いて
　　焼き菓子を見て　またそう思ふ

戻るなら　時空を戻り　あの時に
　　二人の思ひ　つうじる時に

○　女子生徒の作品例

なにゆへに　叶はない恋　現実は
　　思ふことより　難しいのね

いつまでも　一緒にいたひ　こころから
　　そう願ひたる　恋なりし

動画とBGMの活用による短歌の視聴

生徒が作成した相聞の短歌は、プレゼンテーションファイルで、スクリーンに投影して視聴させた。「場面Ⅰ」の動画の音声を消去し、ドラマの挿入曲をBGMとした動画をスライド左側に挿入し、右側に作成した相聞の短歌を挿入した。

相聞の短歌の作成にとりかかる前に、動画とBGMのみのスライドを生徒たちに見せた。

このことによって、生徒たちの学習意欲を高めることができたと考える。発表の場面では、相互評価をさせることによって、評価意識をもたせることもできた。

プレゼンテーションスライド
短歌の作成に取りかかる前に、動画とBGM を挿入したスライドを生徒に見せた。

古典学習に対する興味・関心の高まり

「『花より男子2』で相聞の短歌を作る授業をして、以前より古典の学習が好きになりましたか?」という事後アンケートを、「好きになった」を「3」、「変わらない」を「2」、「嫌いになった」を「1」として行った。その平均は「2・85」であり、事前アンケートの平均「1・05」と比較すると大幅に古典学習が好きになったことが分かった。

おわりに

本単元の学習を通して、生徒の古典学習への興味・関心と学習意欲を高めることができた。しかし、「古典が好きか」という質問に対して、学習後も「変わらない」と回答した生徒が十五％いたことも事実である。今後は、生徒が楽しいと感じることのできる授業をさらに工夫し実践していきたい。

とよせ　きみとし　九州工業大学大学院情報工学研究院客員研究員。教育システム情報学会会員。日本情報科教育学会発起人。ICT活用による授業実践研究を続けている。